

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Drawing		
○保護者評価実施期間	R8.1.15	～	R8.2.15
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R8.1.15	～	R8.2.15
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	R8.1.15	～	R8.2.15
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8.2.28		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童はDrawingの通所も利用しているため、お子さんをしっかり理解した上で訪問に入らせていただいている	依頼内容に対してのお話や観察の振り返りだけでなく、療育で今取り組んでいることやできるようになったことを共有させていただいたり、取り組み方などの支援方法をお伝えさせていただいたりすることで、共感しながら共有できる	直接支援を希望して下さる園や学校の声もあるため、折りを見ながら訪問時の直接支援も担当させていただく
2	園生活から就学期と長期に渡り、支援を継続していける	園の様子を就学移行期にお伝えし、その後の見守りと新たな標的課題の見極めについて、先生方とお話をさせていただいたり、今後の支援の見通しを一緒に考えている	実年齢に応じた付き合い方と発達年齢の両方を考慮しながら、園や学校での対応と事業所での対応を統一していけるようDrawingの自立についての考え方を共有させていただく
3	依頼内容に沿って観察やカンファレンスの結果を報告することで、お子さんの発達段階への理解に共通認識が持てる	園や学校でどう過ごしているか、なにを学習中かの報告を受けることで保護者さんがお子さんの発達段階を改めて認識でき、園や学校できていること、頑張っている姿、先生との関わりにおいて知ることができ、安心できるように工夫している	サービスを使うことで保護者さんの不安が軽減され、お子さんへの対応がポジティブなものに変化していけるよう引き続き支援を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園や学校の都合、Drawingスタッフの訪問可能時間に限りがあり、観察やカンファレンスが担保しきれない	多機能型事業所のため、訪問員が通所の指導員も兼務しており、一日中間所時間が続き、通所児童への支援もあるため、	訪問員として相応しい人員を配置し、訪問専属のスタッフの配置も検討していく
2	訪問先より、いつまで続くのかと問われることがある	困りごとを解消するためだけに入るわけではなく、本人を取り巻く環境(関わる人も)すべてにおいて共通認識を持ち、常に情報共有できる環境作りをしていきたいという思いが、園や学校の方針と合わない事がある	担任の先生とだけでなく、園長先生や校長先生、教頭先生、主任先生など、コミュニケーションをとれる機会があるとよい
3	特別支援学校への訪問が難しい	お子さんや保護者がサービスを使う権利があるか、情報共有さえも難しい状況	サービスの良さを実感してもらえない機会がなくサービス開始につなげることがなかなか難しい